


文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel (0776-82-1141) Fax (0776-82-2261)

【斉藤新緑事務所】〒913-0001 福井県坂井市三国町池上103-36

【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp

【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

ほっとらいん

人に、まちに、いま、 元気の種をまこう。

VOL. 94・95

合併号

グローバリズムと世界政府、世界通貨

▼世界的な事件は、偶然に起る事は決してない。そうなるように前もって仕組まれていたと、私はあなたに賭けてもいい。

(アメリカ第32代大統領フランク・D・ルーズベルト)

▼わが国の発展と我々のすべての経済活動は、完全に少数の人間に集中的に握られているのである。

我々は、世界中で最悪の支配を受け、もつとも徹底的に、そして完全に管理されるようになった。今の政府は自由の意見も述べられず、もはや大勢の国民により選ばれ、確信をもって迎えられている政府ではなく、ごく少数派に支配され強要される政府になり下がった。

わが国の工業、商業を営んでいる幾多の人々は何かにおびえている。その目に見えない権力は組織的に、静かに、いたるところに蔓延し、互いに密接に繋がっている。

徹底的にそしてすべてに広がるその権力を、誰も公に非

難することができない。(アメリカ第28代大統領ウッドロー・ウィルソン)

▼「商品」の供給を独占すれば巨利が得られる。

通貨は不可欠な「商品」であり、一国の通貨発行を独占できれば、莫大な利益を獲得する魔法の杖を手に入れたも同然となる。

数百年来、国際銀行家たちが知恵を絞り、手段を選ばず、国家の通貨発行権を独占しようとした理由がここにある。彼らの最終目的は世界の通貨発行権を独占することなのだ。

世界の通貨発行を支配するために、国際銀行家たちは1970年代から一連の通貨戦争を勃発させた。ドル高の維持、発展途上国の解体、競合相手の撲滅などがそれだ。

狙いは、世界経済を「コントロールしながら解体し」、ロンドンのシティとウォール街が支配する「世界政府」、「世界通

貨」と「世界税収」の礎を作り上げるのである。

ここで注意しなければならぬのは、国際銀行家は「超特殊利益集団」であるということだ。彼らはいかなる国家、政府にも属さず、逆に国家と政府を支配する。

彼らはあるとき、ドルとアメリカの力を利用して、時機到来ともなる、ドルを攻撃する



側にまわる。

1929年の大恐慌に匹敵する経済危機を世界規模で引き起こし、各国政府に多くの主権を放棄させ、地域内の通貨統合を進めたり、個別政府制度の維持を諦めさせる。

中国の金融システムを攻撃することが彼らの最重要課題となっており、これは疑う余地がない。問題は、いつ攻撃するか、どんな方法で攻撃するか、なのだ。僥倖を願っているだけでは、悲惨な結果を招くことになる。

彼らが用いる方法は、日本を攻撃した手法と似ているかもしれない。まず、中国でスーパーバブルを引き起こす。

中国も彼らの援助で、1985年から1990年の日本のように、数年間の繁栄が続く。そして彼らは実行に移すのだ。

「遠距離非接触型」の金融「核」攻撃を仕掛け、世界中で中国経済の信頼を失わせ、海外と国内の資金を中国から追い出してしまう。

その後で、きわめて安い価格で中国の社会資本などのコア資産を買収し、中国経済を徹底的に解体し、世界を統一するものとも重要な一步を踏み出すというシナリオだ。(宋鴻兵)

▼彼らの目的は、彼ら少数のエリートで世界の政府を支配し、統一世界の通貨発行システムを作り、地球上のすべての人々から「世界税」を徴収することである。これが、彼らの言う「新しい世界秩序」なのだ。

この新しい秩序のなかでは、通貨政策や経済政策の決定権は国家から剥奪され、彼らが国家

も国民も操ることになる。人々は、鉄の鎖ではなく、債務という名の鎖に縛られるのだ。現代の「奴隷」から最大限の利益を搾取するために、彼らは、「粗放牧畜」からハイテクを駆使した「飼育生産」に発展させようとしている。

キャッシュレス社会、電子マネー、国際標準ICタグ：もしそのICタグが体内に埋め込まれたならば、それは昔奴隷に烙印を焼きつけたことと同じ現象が起きたのである。ICタグを利用すれば、国際銀行家たちはいつでもそして地球上のどこでも人々をコントロールすることができる。現金が社会から消えたあと、誰かがコンピュータのキーボードを軽くたたいただけで、全財産はどこかへ消えてしまう。

恐ろしい光景だが、国際金融家にとっては、それこそが究極の「新しい世界秩序」なのだ。

▼ICチップを指に埋め込み、ドアの開閉など認証するという新聞記事を読んだ。目覚めなければ、間に合わない。

西川県政15年を総括すべし

今年度は知事の4期目の最終年度であり、初当選からの15年間の総括を求める視点から、知事の政治姿勢について、県会自民党派の代表質問を行った。



▼知事は選挙のたびに県民に向けた公約であるマニフェストを掲げ、当選後はこれが県民に支持されたとして、県議会との協議、同意もいまま県の

指針として行政運営に当たってきた。

マニフェストは任期4年間の公約であり、それを確実に実行すれば中長期的に福井県を展望できるのは不明である。

また、県民にとって、広範多岐にわたって書かれてある248項目にも及ぶマニフェストに目を通しているとは思えないし、仮に目を通していても、賛成できる政策と反対の政策も混在していると思われる。

その意味で、マニフェストは何が承認されたのか、誰からも承認されていないも

また、知事と各部長との政策

誰の支持も受けにくいマニフェスト

のとも言える。

これまでも、マニフェストという政治手法が県の政策決定をゆがめているのではないかと指摘してきた。

この間、県議会との間で紛糾した三方湖の年縮施設、「高

校入試に英語スピーキングテスト導入の検討」、「第2恐竜博物館の検討」などは、いずれも知事のマニフェストにうたわ

れているもので、県職員はその政策立案のプロセスもないま

また、知事と各部長との政策

合意が毎年なされているが、知事と政策合意できない部局長が人事で登用されることは考えられず、茶番である。

マニフェストが、中長期的な政策立案の検討を大きく阻害していると考えられるか。

加えて、マニフェストに教育に関する政策が多数盛り込まれており、それが教育行政の独立性を脅かすこととなっていないか、教育長の任命責任を持つ知事の所見を伺う。

また、知事と各部長との政策

合意が毎年なされているが、知事と政策合意できない部局長が人事で登用されることは考えられず、茶番である。

マニフェストが、中長期的な政策立案の検討を大きく阻害していると考えられるか。

加えて、マニフェストに教育に関する政策が多数盛り込まれており、それが教育行政の独立性を脅かすこととなっていないか、教育長の任命責任を持つ知事の所見を伺う。

また、知事と各部長との政策

できるものではなく、また、短期間で数値として成果が上がるものばかりではない。

マニフェストに限った話ではないが、幸福度しかり、英検合格率しかり、数値の成果を追い求める余り、職員が数値目標をクリアすること自体を目的とするような行政運営になっていないか。その結果、枝を見て木を見ず、木を見て森を見ずとなり、全体の目的を見失わせてしまう。

重要なことは、明確な目的意識のもと、その目的に向けて福井県が実体的にどうよくなり、どう変わったかということである。

個別の数値目標一つ一つの成果に一喜一憂するのではなく、県全体をマクロ的に俯瞰し、その成果を分析すべきである。

今年度も、全194の項目について知事と各部長との政策合意が取り交わされた。内容を見ていると、部局別の狭い視野の中で自分勝手に

論戦の焦点

4期目の最終年度を迎えた西川一誠知事の県政運営について、県会自民党会長の斉藤新緑議員が22日の県会代表質問で、初当選からの15年間を総括する視点でたずねた。

斉藤議員 知事は選挙のたびにマニフェストを掲げ、当選後はそれが県民に支持されたとして県会との協議、同意もないまま県政の指針として行政運営に当たってきた。マニフェストの政治手法が県の政策決定をゆがめ

西川知事 4期目最終年度

ていないか。

知事 マニフェストは県民に具体的な政策を約束し、その実現を図ることであり、政治の基本だ。それが全てではないが、4年

刻みで1年ごとに二つ二つ約束。マクロ的に俯瞰し、部局を超え

「長期政権弊害は」 斉藤議員

したことを真摯に成し遂げている。県会の予算の審議と検討を願うが、行つたものであり、こう

した県政の進め方をしている。斉藤議員 数値の成果を追い求めるあまり、職員が数値目標をクリアすること自体を目的と

する行政運営になっていないか。知事と部局長の政策合意の内容も部局別の狭い視野の中で

目標を掲げ、その達成に満足しているように見える。県全体を

て政策を実施する手法に転換すべきだ。

知事 人口減、人手不足、高

速交通時代のまちづくりなど課題は複雑で多面的。一つの部局だけで目標を達成することは

ながら全体で県政が前に進むよう努力する。

斉藤議員 石川県の谷本正憲知事が7期目の当選を果たした。長期政権は継続的な視点で

安定した政治を担える一方、組織の硬直化などの弊害も指摘さ

れる。西川知事も長期政権とい

うにふさわしい年数かと思う。長期政権の弊害と、職員を含め

県民の判断を仰ぎながら志を新たに県政課題に緊張感を持って

大事に取り組んでいくつもり。県民の利益に沿うよう職員と真

剣に議論し、結果を出していく。

斉藤議員 3月末の政治資金

パーティーは法的には問題ないが、大きな権限を持つ現職知事が開催するとなればパーティー券を購入させるを得ない状況になる。道義的、倫理的な問題があるのでは。

知事 私の応援をしていただけ

いている方々が法に従って開催

した。道義的、倫理的な問題は

ない。

(大谷貴洋)

目標を掲げて、その達成に満足しているように見受けられる。

例えば、健康福祉部の施策を見てみると、早期発見、早期治療、予防接種、検診に象徴されるように、そのほとんどが自分の体を医者任せにすることを推進しており、健康増進行政が医療費の増額に寄与している状態である。生活習慣病は、文字どおり生活習慣を改めない限り、一生薬漬けになってしまう。

病予防、治療の根本は食生活にあり、真の健康増進のためには、乱れた食生活や化学物質に汚染された食品の危険性を知り、地元農産物の使用を心がけることがどれだけ重要かということとを啓発していく必要がある。

地産地消の推進、食の教育を徹底することが、最大の健康増進政策であり、医療費抑制政策でもあるということ踏まえるならば、健康増進サイドが農業や教育サイドに対して積極的に関与していく必要がある。

それによって、部局別、事業別に分断された政策がなくなり、全体を俯瞰した目標が生まれてくる。

職員みずからが考え、根本的な目的意識を持ってこそ、真の行政目的が見えてくると思われる。

根本的な行政目的を明確にし、その目的達成のために部局を超えて政策を実施する手法へと転換させるべきだと思っどうか。

西川知事の任期もこととして16年目となり、長期政権と言いうにふさわしいが、この長期政権の弊害と職員を含めた多様な意見を聞き入れていくことについて、御自身の対応に関する評価を含め、所見を伺う。

さて、37年ぶりの豪雪で混乱を招いた余波も冷めやらぬ3月27日、福井市内で西川知事の政治資金パーティーが盛大に開催された。

法的には問題はなくとも、予算編成権、執行権、入札指名権、人事権など大きな権限を持つ現職知事が開催するとなれば、周囲の関係者に付度させ、パーティー券を購入せざるを得ない状況に至り、県民感情を考えると、道義的、倫理的には問題があるのではないかと。

今回のパーティーの目的は何か、強大な権限を持つ知事による資金集め、パーティーの道義的、倫理的な問題についてどのように考えるのか。

豪雪危機管理能力を問う

今回の豪雪は、別に夏に雪が降ったわけではない。

地震とか原発事故とか、火事が起きてこの複合災害でかつて経験したことがない未曾有の災害、想定外の案件ではなくて、降るべき冬の季節に雪が降って、それが56豪雪に匹敵するものだったということだ

けである。

雪害危機管理対策としては、想定内のことであった。これができなければ、危機管理とは言えない。

しかるに、一連の報道を見ても明らかのように、「情報遅く対応後手に」、「教訓生かせぬ人災」、「国や県連携欠く」、「除雪計画穴だらけ」というふうな報

道であるし、今議会でも多くの議員が指摘したように、道路の除雪、鉄道の運行、情報発信、道路の監視カメラの問題、連絡体制に至る何から何まで機能せず、多くの人々を混乱に陥れた最悪の雪害危機管理体制であったと言わざるを得ない。

とりわけ、オイルロードが確保されていない、油が途絶

える、まさに「油断」であったわけである。が、これまでの知事の答弁を聞いてみると、高速道路や8号線は国がすること、電車は鉄道会社がすること、情報発信には問題がなかった、除雪体制に不備はなかったなど、県に責任は全くなかったと言っているようであって、全く人ごとのような答弁に思えた。

雪に弱い福井県を全国に露呈し、多くの人々に迷惑をおかけしたにもかかわらず、ましてや車中で尊い青年の命が奪われたことに鑑みれば、福井県の危機管理責任者として知事の責任は重く、責任ある反省の弁がないことは極めて残念であり、納得できない。

雪に強い福井県をつくるために作成されている地域防災計画除雪雪害編、福井県雪害予防対策実施計画、除雪のま

雪が災害になるのが実態なので、その中で最大限を尽くすが防災だ。 齊藤委員 県の計画を全て見直す判断をするのか。 山田副知事 さまさまな課題があったのは事実なので、それをしっかり検証し、反映すべきものを反映させる。 齊藤委員 道路除雪のために自宅から出ないでという、県民向けの強いアナウンスが必要だったのではないかと。

論戦の焦点

県の大雪災害対応を巡り、齊藤新緑委員（県会自民党）が13日の県会予算決算特別委員会で西川一誠知事に危機管理のトップとしての責任をたまたした。知事は「課題を調査し、6月議会で報告したい」との考えを改めて示した。

齊藤委員 今回の豪雪は夏に雪が降ったわけではなく、地震や原発事故などの複合災害ではない。雪害の危機管理としては想定内だ。それにもかかわらず（坂井市三田町の油槽所をつなぐ）オイルロードが確保されなかった。油が

大雪巡る県の対応

「トップの責任重い」 齊藤委員 「防災最大限に尽力」 知事

齊藤委員 危機管理のトップとしての責任は重い。 知事 大雪災害対策本部を25回開催し、全て公開した。メディアの質疑を受け付け、さまざま内容が異なる。大雪が豪雪になり、地

のような事態にならなかったのではないかと。それとも計画自体が実行不可能なものだったのか。 知事 災害であれ地震であれ、一定の想定はするが、それぞれ状況が違う。大雪が豪雪になり、地

知事 事後的に言うことは可能だが、まさに雪が降り始めている状況の中で指示はなかなか困難ということとはご理解いただきたい。（大谷貴洋）

水道民営化法案に意見書

▼時折、この国の政治は、一体、どこの国の誰のためにやっているのだろうか、誰が操っているのだろうかと思うことがある。

▼日米構造協議での「対日要求書」に応じる「アメリカのための改革」が「構造改革」。改革することが正義となつて、規制緩和、自由化、民営化が叫ばれ、何もかも投資の対象となつて、国の財産が次々とグローバル企業（外資）に売却されている。

そのための重要な法案が、私たちの知らない間に国会に上程され、そそくさと可決されていく。既に「学校民営化」や「主要農作物種子法の廃止法案」が可決されている。そして今、水道民営化法案が衆院を通過している。

▼主要農作物種子法が廃止された。
種子法は、稲・麦・大豆といった「主要農作物」の種子を対象に、各都道府県に奨励品種の指定と生産を義務付け

るといふもので、日本の「食料安全保障」に大きく寄与してきた。

「種子」を「公共財」とみなしてのシステムは、行政によつて、予算化され、種を管理・保存し、農家へ安定的に提供してきた。

しかし政府は、「民間事業者が参入しにくい」という理由で、これを廃止。民間の参入により農業の「競争力強化」を図るとしている。

だが、種子に関する規制が緩和され、海外の危険な遺伝子組み換え作物が日本に流入するのは火を見るより明らかだ。「種子」は「公共財」として保護されることにならなければ、単なる私企業の私有財と化す。

▼水道民営化法案

水道施設がこれから老朽化し、人口減少の中で水道収入も減少すると設備更新ができなくなるので、運営権を民間譲渡するなど対応できるように

にするための法案だといいます。

しかし、諸外国の水道民営化の例を見ると、参入した外資企業が、まずやるのは雇用の大幅削減、続いて、水道料金の値上げ、料金が4〜5倍に跳ね上がる。



採算が合わない貧困地区への水道管の敷設をしなかったのに加えて、困った人に水を分け与えることも禁止し、公園などの

ただの水も飲めなくしている。

もし水道事業が外国企業に渡つたとき、日本の特殊な側面としての、水道水に含まれる多量の放射性セシウムの検査をするのだろうか。そういう意味では、将来的にどんな薬物を混入された水を飲まされるか、わかつたものではない。

▼世界の水は、これからどうなっていくのか。それに対し

て、政治家は、自国の国民を守るためにどのような政策をもつべきなのか。

2050年までに世界人口の40%が厳しい水不足に直面するとの予測がすでに出てい

る。各国政府が理解し始めているように、水不足は経済的、人道的な課題であるだけでなく、地政学的な問題もからんでくる。淡水の供給量が次第に減少していくと、国家はそれを確保するためにあの手この手を尽くすようになる。

隣国の中国が水不足に悩まされている。このときに、外国企業に自国の水道事業資産規模30兆円という公共サービスを外国資本に差し出すのか。ならば何と無知な「今だけ、金だけ、自分だけ」だろう。

我々の生存に不可欠な水や農作物の種子を、最も価値あるものとして、日本が知らしめるべきだ。

そうした思いから、地方の声を中央に届ける、福井県議会の意思として国会に慎重審議を求める意見書を提出することを本会議に提案、全会一致で可決した。

国体・障害スポ9月25日配布 ヘルプカード導入



▼「手話言語条例と共生社会条例」を可決した2月定例会閉会后、関係者の歓喜に議場が満ちあふれたことは、我々議員としても大変感慨深いものであります。と同時に、今後の取り組みが何より重要であると感したところであり

ます。このマークは、人工関節の使用や内臓疾患など外見的不慣れなく、障害などがあり、配慮や支援を必要としていることを示すものであります。本県においても、全国で普及が進む「ヘルプマーク」を、国体・障害スポの開催までに導入すべきと提案するが、所見をお聞きする。

て、国体期間中の障害

ポ競技の実施や健常者と障害者によるデモ

ポなどが実施される

が、全国では、東京オリ

ンピック・パラリン

ピックに向けて、経済産業省が

JIS案内図記号に採用した

「ヘルプマーク」の導入が急速

に進んでいる。

このマークは、人工関節の使用や内臓疾患など外見的不慣れなく、障害などがあり、配慮や支援を必要としていることを示すものであります。本県においても、全国で普及が進む「ヘルプマーク」を、国体・障害スポの開催までに導入すべきと提案するが、所見をお聞きする。

▼「福井県のヘルプマークの導入について、誰に言っても遅々として進まない。国体・障害スポをやるといふのに、それでは恥ずかしい。何とかしてくれ。」

旧今立町の昔の青年団仲間

からメールが届いた。ちょうど私が代表質問をする時だったので、取り上げたところ、9月25日から配布が決定、国体・障害スポに何とか間に合わせる事ができた。

▼依頼者からの返信

(代表質問の翌日)

昨日の県会での代表質問、ありがとうございます。新緑さんです。

自分が、障がい者になって、初めて気づくことが、たくさんあります。ひとつひとつが学びです。素晴らしい先輩を持つて幸せです。お忙しいなか、迅速なお働きありがとうございました。

(ヘルプカード導入決定を報告した日)

やったく。さすがです。昔から、弱者の立場に立ち、その事を第一に考えて行動するといふ新緑さんのコンセプト、揺るぎないですね。県内で見えない障がいとか、妊娠初期等で、辛い思いをしている多くの方々の思いを理解頂き、心から感謝です。ありがとうございました。

全体主義は沈黙から始まる

先の通常国会閉幕後の七月末、衆院議長が「今国会を振り返っての所感」と遺し、極めて異例の談話を発表した。

大島理森議長はこの談話で先ず、「この国会において、①議院内閣制における立法府と行政府の間の信頼関係に関する問題や、②国政に対する国民の信頼に関わる問題が、数多く明らかになりました」と述べ、さらに

「先ず、民主主義の根幹を揺るがす」として、こう厳しく注文を付けた。

「これらは、いずれも、民主的な行政監視、国民の負託を受けた行政執行といった点から、民主主義の根幹を揺るがす問題であり、行政府と立法府は共に深刻に反省し、改善を図らねばなりません」

衆院議長が「民主主義の根幹を揺るがす」議院内閣制の基本的な前提を揺るがす」と警告を発すること自体が重大事件である。

▼県議会の重要な任務は、知事の政策を監視し、問題点を指摘したり、提言をしたり、場合によっては議案の修正を行うことである。

民のためなのか、将来の子孫が各々の地域で幸福に安心して暮らしていけるのか、疑問視せざるをえないことばかりだ。

自民党総裁選、党規約を改正し、総裁任期を延長するところがスムーズに通っていくことなど、かつての自民党では考えられないことだ。

財政省に森友問題をめぐる決裁文書の改竄問題、②厚労省による裁量労働制に関する不適切なデータ提示、③防衛省の陸自の海外派遣部隊の日報に関する杜撰な文書管理など、一連の事件を取り上げ、「立法府・行政府相互の緊張関係の上に成り立つ議院内閣制の基本的な前提を揺るがす」ものだ、と断じている。

国家は権力者の横暴・腐敗から、崩壊の危機が始まる。魚と組織は頭から腐っていくものなのだ。古今東西の歴史を振り返れば一目瞭然だ。

大島議長の指摘は詳細を極めたが、新聞・TVは、誰に付度したのか、この事実すら報道しなかった。

今回の異例の議長談話は、一言で言ってしまうと、国会議員がその任務を果たしていないということだ。

「自分が自民党だ」という風潮であったものが、小選挙区で党の公認が絶対条件となったためか、自由闊達な議論や相互批判が失われてきた。

大島議長は談話の中で、①

地方議員という立場で国会を見ていると、やっていることが、本当に、日本の国家や国

「教育民営化」、「主要農産物種子法の廃止」、「TPP」など、日本の国を売りつくすように見える重要法案がいつのまにか国会に上程され、十分な議論を尽くすこともなく可決していく。

政治が劣化し、政治家が幼稚化し、意見・行動の多様性が消滅し、沈黙すれば、全体主義は近い。

衆議院議長談話（今国会を振り返っての所感）

先般の通常国会は、1月22日にはじまり、7月22日まで、延長を含めて182日間の会期となりました。

1. この国会において、①議院内閣制における立法府と行政府の間の基本的な信頼関係に関わる問題や、②国政に対する国民の信頼に関わる問題が、数多く明らかになりました。これらは、いずれも、民主的な行政監視、国民の負託を受けた行政執行といった点から、民主主義の根幹を揺るがす問題であり、行政府・立法府は、共に深刻に自省し、改善を図らねばなりません。

2. まず前者について言えば、憲法上、国会は、「国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関」（憲法41条）として、「法律による行政」の根拠である法律を制定するとともに、行政執行全般を監視する責務と権限を有しています。これらの権限を適切に行使し、国民の負託に応えるためには、行政から正しい情報が適時適切に提供されることが大前提となっていることは論を俟ちません。これは、議院内閣制下の立法・行政の基本的な信頼関係とも言うべき事項であります。

しかるに、(1) 財務省の森友問題をめぐる決裁文書の改ざん問題や、(2) 厚生労働省による裁量労働制に関する不適切なデータの提示、(3) 防衛省の陸上自衛隊の海外派遣部隊の日報に関するずさんな文書管理などの一連の事件はすべて、法律の制定や行政監視における立法府の判断を誤らせるおそれがあるものであり、立法府・行政府相互の緊張関係の上に成り立っている議院内閣制の基本的な前提を揺るがすものであると考えねばなりません。

3. また、行政・立法を含む国政は、「国民の厳粛な信託によるもの」であり（憲法前文）、民主主義国家においては、国政全般に対する国民の信頼は不可欠なものであります。

にもかかわらず、行政執行の公正さを問われた諸々の事案や、行政府の幹部公務員をめぐる様々な不祥事は、国民に大いなる不信感を惹起し、極めて残念な状況となったのではないのでしょうか。

4. 政府においては、このような問題を引き起こした経緯・原因を早急に究明するとともに、それを踏まえた上で、個々の関係者に係る一過性の問題として済ませるのではなく、深刻に受け止めていただきたい。その上で、その再発の防止のための運用改善や制度構築を強く求めるものであります。

5. 以上のような問題を生起せしめた第一義的な責任は、もちろん行政府にあることは当然であります。しかし、そのような行政を監視すべき任にある国会においても、その責務を十分に果たしてきたのか、国民の負託に十分に答える立法・行政監視活動を行ってきたか、については、検証の余地があるのではないのでしょうか。国会議員は、私自身も含め、国民から負託を受けているという責任と矜持を持たねばなりません。このような観点から、最近、各党各会派や議員グループから、国会改革に関して具体的な提言がなされていることも、衆議院議長として、承知しているところであります。

今国会を振り返り、私たちは、国民から負託された崇高な使命とあるべき国会の姿に思いをいたし、憲法及び国会関係諸法規によって与えられている国会としての正当かつ強力な調査権のより一層の活用を心掛けるべきであります。そして、必要とあれば、その実効性を担保するため、それら国会関係諸法規の改正も視野に入れつつ、議会制度協議会や議院運営委員会等の場において、各党各会派参加の上で、真摯で建設的な議論が行われることを望むものです。

(平成30年7月31日)

孫への手紙 (12)

思考するふいふいふ

お誕生おめでとう。

「結衣」と名付けてもらいました。みんなを包み込むような良い名前だと思えます。

結衣は、金沢の病院で4月12日に生まれました。(池上村の春祭りの翌日なので、覚えられます。)金沢の家では、初めての女の子なので、さぞ喜んでのことと思います。

はじめまして、私は、あなたのお母さんのお父さんで、あなたの福井(三国)の爺ちゃんです。

爺にとっては、あなたは4人目の孫で3人目の孫娘です。

生まれてすぐの様子をお母さんが、動画で送ってくれたのですが、驚いたのは、チューチュー音を立てて指を



孫からの葉書 (敬老の日に)

吸っていたからです。産まれてすぐに、そんなことができ

るのかと感心してしまいました。

その感動を、すぐにお手紙に書こうと思ったのですが、

何だかんだと落ち着かなくて、あれから、もうすぐ6ヶ月になろうとしています。

お母さんからは、お腹をくすぐるとゲラゲラ笑う結衣の動画が送られてきて、順調に元気に育っている様子が窺えます。

暑い夏も過ぎて、ようやく、さわやかな秋になってきました。

耳を澄ますと、蟬の虫の声が変わっていることがわかります。

かるでしょう。

日本には四つの季節があり、結衣は桜の咲き誇る4月に生まれ、夏を過ごし、秋を迎えています。

「春」は寒い冬を過ぎて雪が溶けて陽気になり、花が咲き

ほころび「こしやす」季節です。し、「秋」は、暑かった夏から解放されて、何をするにも最適な気候となり、樹木が紅葉し、落葉していく風情が物悲しく、人生の深みを感じさせてくれる季節です。

どちらも人が過「こしやす」季節で、人気のある二つの季節を選んだのでしょうか。

それでもあえて、春か秋か、究極の選択をしようとしたのが「春の争い」です。

その結果、「春はただ花のひとつに咲くばかり

り、もののあわれは秋ぞまされる」となって、秋に軍配が挙がっています。

「秋」という一字だけでも二年という意味を持ちます。

▼9月といえば、祭日が二日あります。「敬老の日」と「秋分の日」です。敬老の日は、文字通り、老人を敬う日で、今の私たちにつないでくれたことへの感謝をします。

今年、保育園に通う結衣の従姉の風咲と綾咲から、「いつまでもげんきでね」とはがきをもらいました。



うれしい気持ち半分、敬老の仲間入りを果たしたのかと思つたら、ちよつとガクツときました。

「秋分の日」は、「春分の日」と同様に、昼の長さ夜の長さが同じ日で、秋分の日が過ぎると、だんだん昼が短くなって、暗くなるのが早くなります。

一番、昼の時間が短い日を「冬至(12月)」と言い、一番長い日を「夏至(6月)」です。このように、二至(にし)二分(にぶん)があり、一年を4等分しています。



祭日ではありませんが、9月といえば「中秋の名月」、今年、24日が満月のよう

です。「月々に月見る月は多けれど月見る月はこの月の月」、空が高く澄んで、月が一段と美しく輝き、月光に身が包まれるよう

「月読みの光りを待ちて帰りませ、山路は栗の毬の多きに」

「秋風にたなびく雲の絶え間より、もれ出する月の影のさやけさ」

「月見れば千々にものこそ悲しけれ、わが身ひとつの秋にはあらねど」

▼結衣が大人になる時は、いつになるのだろうか、と、プールで泳ぎながら思ったのですが、その時は80歳を越えていて生きていられるかどうかかわりません。

なぜ、泳いでいるのか、というとポンポコたぬきのおなかになつてきたからです。

これでも昼休み2ヶ月間

から「唯我独尊」である。

00m、35分泳ぎ続けているのです。が、ちつともへこみません。

60歳になってからか、自分で買物に行つて、事務所で自炊するようになって、食材を少しでもラップして残すというのがめんどろで、多めにつくってしまったたり、古くなって捨てるのがもったいないので、食べてしまつたりと、食べ過ぎてしまいます。しかし、ちよつとつ作つたり、少しでも保存したりするということとは、性格的に無理なので、やはり身のまわりに食べ物を置かないことが、最善なのかもしれません。

結衣の成長を見守るためにも、生活習慣に気をつけようと思えます。

▼天上天下唯我独尊

釈迦は摩耶夫人の右脇から生まれたとされるが、その後七歩歩いて右手で天を指し、左手で地をさして「天上天下唯我独尊」と言つた、という伝説があります。

諸説あつて、釈迦がこの世で解脱する

から「唯我独尊」である。

三界の迷界にある衆生はすべて苦しんでいる。私はこの苦しみの衆生を安んずるために誕生したのだから、尊いのであるという。

天台宗尼僧の露の団姫は、「この広い世界のなかで、私たち人間にしかできない尊い使命がある」と解釈している。

結衣は、どんなふうにも生きていか、か、「浜下結衣」という人は世界でただ一人、他人の人生ではなく、自分の人生をしっかりと生きて欲しいとおもいます。

というのも、ボクと生きていくと保育園から始まって学校へ行き、卒業して、就職して、結婚して、子どもを育て、退職して、死んでいくという流れを消化するようになるものになつてしまふからです。

▼憂き世と浮世

仏教的厭世観(この世は苦を背景に現世を「憂き世」と見ると「憂き世」)

漢語の「浮生(二)定めぬ人(一)」の意が加わり「浮き世」



「この世は苦を背景に現世を「憂き世」と見ると「憂き世」)

漢語の「浮生(二)定めぬ人(一)」の意が加わり「浮き世」

近

近

近

近

近

世になると厭世観の裏返しで享乐的に生きようとする意味になりました。

記憶は定かではありませんが、戦乱の時代は「憂き世」、江戸時代になって、戦争のない平和な時代になってから、浮いた「浮き世」になったようです。

「生まれては死ぬるなりけり押しなべて、釈迦も達磨も猫も杓子も」(一休禅師)

▼「人生の短さについて」

古代の哲学者セネカが二千年の時を越えて私達に「あなたは生きていない」と警告します。人生を無意味なことに費やすとあつと間に過ぎ去ってしまう。本物の人生を生きるべきだと説いている。

本物の人生とは、愛すること、徳を実践すること、激情を忘れること、いかに生き、いかに死ぬかを知ること、そして深い安らぎの境地に達すること。名著とは、時が経過しても通用する普遍的なものを言います。良い本を読むことは、心に栄養を与えらるもので、どれだけ人生を豊富化するかわかりません。どんな本を読むべきかは、爺が教え



してお金を利用して、水や食料よりもお金のほうが利用されるようになってから、水や食料よりもお金のほうが利用

▼どんな社会の中で生き

会の中で生きるのか。結衣が生まれた社会は、人間の長い歴史の中で作られてきたものです。誰がつくってきたのかといえ、ケンカの強い人です。

初めは腕力でしたが、その後武器を持つもの、そしてそれを買っただけのお金を持つ者が一番強くなりました。

結衣が生きているこの社会は、「拝金経」ともいえるべき社会であり、お金が社会を支配しています。そのお金は、単に絵柄が印刷してある紙です。

▼猫に小判

猫に人間が使うお金を渡しても何の価値もなく、意味もありません。そんなものよ

り、生きるための水や魚が欲しいのです。人間として、生きるためには水や魚が必要で、紙や車がど



がえらくなりまし。そこから、お金が支配するヘンテコな社会が生まれました。

▼通貨発行権

では、そのお金を発行している人は誰でしょうか。



誰もが、国が発行していると思

いますが、国には通貨発行権がありません。(民間に奪われたのです)それが、各国にある中央銀行です。日本では、日本銀行(日銀)ですが、日銀の株主の45%は民間人です。世界の基軸通貨ドルを発行するのはFRB(連邦準備制度)は100%民間です。

日銀は、表向きは、日本と国民の経済発展のために存在するとされていますが、政府と国民の意思を反映する機関ではありません。日本政府から独立した権限であり、紙幣をどれくらいつくるか、あるいはつくらないかを独自に決める権限を持っています。(バブルを起こすのも、つぶすのも日銀)。

の一存で決められ、国民は選ぶ権利を持ちません。

▼銀行家は世界の支配者

通貨発行権を握るロスチャイルド一族などの国際銀行家がどのようにして世界中の人々に影響を与えているか。

国際銀行家は、①中央

銀行を設立してその所有権を直接握る、もしくは中央銀行の集まる会議で指示を与えて間接的に支配する。②指示を受けた各国の中央銀行は、決められた量のお金を発行し、政府や銀行に貸し付けて利子をとる。③景気、不景気やインフレ、デフレが決まる。

そして、中央銀行に借金を負う政府は、その返済のために国民から必要以上に税金を取り立てなければならぬ。国民の意思を反映する機関ではありません。日本政府から独立した権限

私に与えよ。そうすれば、誰が法律を作ろうがかまわない」

▼借りのものは貸すものの奴隷

「借りのものは貸すものの奴隷となる」(旧約聖書)

▼自分の頭で考えること

こうした仕組みは爺たちが生まれる約300年以上前から、出来上がっています。

借りのものは貸すものの奴隷となる。旧約聖書。借りのものは貸すものの奴隷となる。旧約聖書。借りのものは貸すものの奴隷となる。旧約聖書。

そのことに気づかれないように彼らは、工夫してきました。

▼爺は34歳で三國町議会議員になり42歳で福井県議会議員になり、今年で28年になります。

「勉強をしない議員」は言われないように努力してきました。そして、結衣のように、これから生まれてくる者も

▼政治家たるべき者、一年のうち半分は本を読め、にも忠実に励んできました。

その結果、歴史をはじめ、一般常識的に伝えられた世の中の多くのことが、ウソ、インチキ、捏造、偽装八百長であつたり、必ず誰かが裏で仕掛け

たものであることがわかりました。生まれるながらにして結衣は嫌がおうでも、この社会で生きねばなりません。そのためには、視野を広く持つて、もつと高い次元から物事を見ないと、目の前に起きていることがすべて真実だと思ってしまう。

た。初めての手紙にしては、内容がダイブになりすぎましたね。次回は、結衣が健康で人生を過ごせるように、体に取り入れる食事や薬について、お話しします。

▼思いがままに書いてきた

これらについても、世界支配者は病気をつくつて、医療で儲けることを企

▼福井の爺より

福井の爺より

福井の爺より

日本語とヘブライ語

君が代は(クムカヨフ) 千代に(テヨニ) 八千代に(ヤ、チヨニ) さざれ意思の(サツサリド) 巖となりて(イワ、オト、ナリタア) 苔のむすまで(コ(ル) カノ、ムシユマツテ)

(ヘブライ語の意味)立ちあがれ シオンの民 神に選ばれた者 喜べ、人類を救う民として 神の預言が成熟する 全地で語り、鳴り響け

かごめ、かごめ(カゴメ、カゴメ) かごの中の鳥は(カヴェ、ノエ ナカノ、トリ) いついつ出やる(イツイ、イツイ、ディユウウ) 夜明けの晩に(ヤーアカ、バンテイ) 鶴と亀がすべった(ツル カメ スーベシタ) 後の正面だーれ(ウーシラツ、ジヨーマン ダラー)

(ヘブライ語の意味)誰が囲む(守る)のか頑固に閉ざされ、安置されているものを取りだせ。契約の箱に閉じ込められてこれまで安置されてきた神器をとりだせ。神器を取り除き、代わりにお守りを作った。

さくら さくら やよいの空は 見わたす限り かすみか雲か 匂いぞ出する いざや いざや 見にゆかん

(ヘブライ語の意味) (神が)隠れてしまった 唯一の神が、迫害を受け耐え忍び 死んで犠牲になってしまった くじ引きで引き当てられ、取り上げられてしまった 素晴らしい神の計画 それは救いである その救いの捧げものが成就した

「ヤーレンソーランソーラン ソラン ソーランソーラン ハイハイ」

金沢の孫が、「ソーラン節」を踊る動画が届いた。保育園の夏祭りで踊るようだ。しかし、「ソーラン節」の本当の意味は、孫も娘も動画を見て喜ぶ婆さんも誰も知らない。

「ヤーレン・ソーラン…」という掛け声は、日本語としては何の意味もなさないが、ヘブライ語で読めばちゃんとした意味がある。

「ヤーレン」は「喜び歌う」、「ソーラン」は「二人で」、「チヨイ・ヤサエ・エンヤン・サー」は「たとえ嵐が来ようとも、真つ直ぐに進め」、「ノ・ドッコイシヨ」は「神の助けによって、押し進んでいく」という意味となる。

つまりソーラン節は、古代ユダヤ人たちが荒波を乗り越えて約束の地に向かう際に歌った行進曲であった。

▼日本の国歌、国歌となった「君が代」をはじめ、童謡、民謡など日本語として意味不明な部分や日本語としては何の意味も持たない雑言、掛け声の多くが、ヘブライ語で読むと秘められたオリジナルの意味が浮かび上がってくる。

新緑の気ままにトク

「よいしょ!」どの「よいしょ!」はヘブライ語の「イエシュ」(神よ救ったまえ)イエス・キリストの「イエス」と同じ語源、「ドケイシュ」(退かすので、神よ助けたまえ)。

ワッショイ!は、(神が来た)。よっしゃ!は、「ヨシユア」で、「神の救い」、ヤッホーは、「栄光の神!」。

日本の国技となっている相撲の時の掛け声「はっけよ!」のこたのこたは、「ヘブライ語」Hakeh-Yohy (はっけよ!)は、「投げつけよ、やっつけよ」という意味になり、また(のこたのこた)は、ヘブライ語の「NKTI」で勝つ・征服するという意味になる。

▼ところで、三国神社建立の際に真言宗の上人が歌ったといわれる、わが町の三国節にもユダヤの影響があるという。

まず、三国は、神の国を意味する「御国の当て字ではないか」ということ。真言宗の開祖は空海弘法大師(日本にイスラエルの信仰をもたらした仕掛け人)だということ(いろは歌に隠された「イエス」、「啓(カキ)なくて死す」)。

いろは歌に隠されたメッセージの謎とは

Table with 10 columns and 10 rows of characters from the Iroha song, with circled characters and arrows indicating a path.

使徒イエスをして 産となったモーセの神、八重様の逸話

歌詞に「主を待つまの」とあり、主はキリストとも理解できたまえ「イエス・キリストの「イエス」と同じ語源)、「ドケイシュ」(退かすので、神よ助けたまえ)。

▼古代イスラエル消えた十氏族がシルクロードを通って、日本に渡ってきた。秦氏は日本のほとんどの神社を建設している。

伊勢神宮の石灯籠にユダヤの紋章「ダビデの星」が刻まれていたり、八坂神社の京都の祇園祭は「シオン」の祭り、太い秦と書いて大秦、神社の鳥居、神輿、相撲など古代イスラエルのものと思われるものが多く存在している。

サムライシヤムライ、社務

所シヤムシヨ、アリガトウリアリ。ガト(幸運です) 神への感謝の言葉 というように、まったくそっくりな言葉が五〇〇ぐらい、類似性のあるものがこの10倍ほどあると云われる。古事記や日本書紀に書かれていることと聖書に書かれている神話が良く似ていて、天照大神はイエス・キリストだという話もある。

日本は、文明発祥の地ではなく、東西南北から渡来人がやってきて、様々な文化が熟成されたものと思われる。

▼「斉藤幹事長、安倍晋三でございませう。このたびの総裁選挙で本当にお世話になっております。どうか最後までよろしくお願ひ致します」。

見知らぬ電話番号だったので放置したら、留守電に現役総理大臣の声が入っていた。

歴史を見ると、長期政権の時にはアメリカにとって都合のよいルール改正や政策が実施されている...

日銀が株を買って株価を上げ、今や上場株4分の1の筆頭株主、国債保有率が5割。北朝鮮真つ青の国営企業化、日本の社会主義国家化。バブルをつくるのも、はじけさすのも「日銀」、BIS(国際決済銀行)から指示を受けてやっていること。

何だか時限爆弾を抱えているような気がしてならない。日本の国富がどんどん奪われていくような...

▼豪雪、豪雨、観測史上最高温度、台風、地震、今年は大変な災害年だ。台風が戻ってきたりするなど、変な動きをすると、軍事兵器(気象兵器)を使った気象操作なのかと勘ぐりたくなる。

福井県の豪雪は大変だったが、考えてみれば、何もしくとも雪はいずれ溶けて、何事もなかったように足跡を残さない。その点、土砂災害などは、大変だ。

私が、福井県議会議員の互助会の会長ということもあって、被災された都道府県に対し、県議会からも災害見舞金を各地に送らせていたのだが、これだけ、多い年もめずらしい。

互助会といえば、同僚の敦賀市選挙区の石川与三吉先生が88歳になられた。福井県議会はじまって以来の現役米寿者ということもあり、全員で米寿祝いをさせていただいた。

ご本人から、涙ながらに「あんなには一生頭が上がりません」と言われて、こちらも感無量になった。

それにしても、88歳まで生きることが難しいのに、元気で、敦賀から県議会まで高速道路を飛ばし、早朝から県民の陳情を受けている姿は大したものだ。

安田財閥、安田善次郎の言葉を思い出す。 五十、六十、渾垂れ小僧 男盛りは、八十、九十

実るほど頭をたれる稲穂かな 国体開会式を発効日として。